

IV-49

都市空間演出としてのインフラ整備の手法

三菱総合研究所 正会員 艸田 正樹
 名古屋大学 正会員 林 良嗣
 名古屋大学 正会員 佐々木 葉

1. はじめに

現在わが国は都市を中心としたインフラ整備の最盛期にさしかかっており、構造物の建設によって日々空間を変容させている。一方、景観やアメニティへの関心が物語るように、インフラ整備によって獲得される機能とサービス面での生活の充実と同時に、インフラによって規定される空間の質そのものの獲得が今や大きな目標といえる。そこで、従来主に機能面から語られることの多かったインフラ整備を、ここでは都市における空間的ストックの形成という面からとらえ、今後のインフラ整備のあり方を提示する。そのためにインフラ整備に対する基本的な考え方を整理し、さらに歴史的な事例に学ぶことによって、空間ストックの形成に最も密接に関わる都市インフラである広幅員街路と環状道路を対象とした整備手法をまとめた。

2. インフラ整備の位置づけ

構造物として存在するインフラは機能としての性格と空間の構成要素としての性格を合わせもつ。しかもそのスケールと機能のゆえに、インフラが都市空間に与える影響は大きく、構造物の修景といった表層的なデザインの効果をしのぐとも言える。つまりインフラ整備とは、施設機能の充足とともに、ヒューマンスケールで体験される空間のアメニティの創出および景観体験を通じて認識される都市全体のイメージに大きく関わり、これらの特質を通じて都市の個性が形成されると考えられる（図1）。

またインフラは、時とともに変化する都市の社会のシステムに応じた様々な要求に対応するべく整備され、文字どおり都市の空間を造ってきた。欧米都市においては、19世紀の産業革命を転機とした近代都市への変革期、20世紀のモータリゼーションに加速された都市規模の拡大期、そして情報化、国際化の進展およびポスト・モダンズムという価値観の転換を迎えた20世紀後半という、大まかな時代区分によって、インフラ整備に対する要請、成果、課題をそれぞれ把握できる。このうち現代の都市再生の時代における状況を整理したものが図2である。

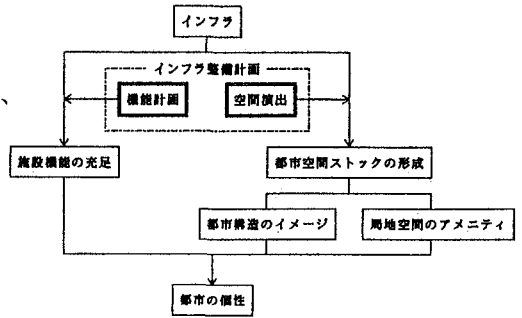


図1 インフラ整備の基本的性格

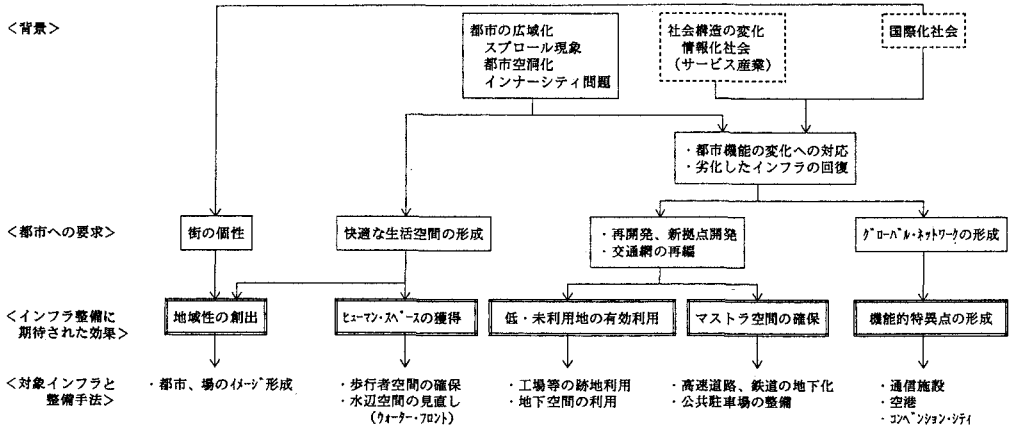


図2 現代の都市への要請とインフラ整備

3. 広幅員街路の演出手法

2. で示したインフラ整備への観点に基づき近代の代表的な歴史的整備事例を分析し、整備対象インフラの空間演出上のポテンシャルとみなせる空間的、意味的特性を把握し、それを活かす手法を整理した。まず交通幹線であると同時に都市の顔となり得る広幅員街路の空間演出上の特質は以下の通りである。

- ・ 2点間をつなぐという線の方向性によって都市軸となり、その連結による軸の延長・ネットワーク化が可能。
- ・ 広幅員という空間的特徴により、広場状の空間として認識され、街路の両側の領域をつなぐゾーンとなる。
- ・ 街路の軸線方向に視線が通ることにより、方向感覚が演出される。
- ・ 街路の両側に視線が通ることにより、空間としての一体感が得られる。

以上のような特徴を活かして、都市空間を方向感覚や対比感覚といった秩序形成の基本感覚に照らして演出することができ、そのための手法は表1のように整理される。

4. 環状道路の演出手法

都市内の交通ネットワークを形成するという機能上の要求からつくられた環状道路がどのような都市空間演出効果をもたらすか事例から分析し、広幅員街路の場合と同様にまとめた。

- ・ 環状という形態から、その内と外の領域を規定する。
- ・ 沿岸など地形的な領域の縁を通過する部分では、内外の対比を明確にする。
- ・ 連結するという性格上、都市内の要所を結び付け、位置・方向の感覚を与える。
- ・ 境界となる環状道路上からの、領域の内外の同時的視覚体験によって、領域の連結性が演出される。
- ・ 環状道路によって連結された要所を見通せることによって、場所の感覚がつかめる。

こうした特徴を活かし、内外感覚や方向感覚によって都市領域イメージおよび空間を演出する手法を表2に整理した。

5. おわりに

本研究ではインフラを従来通りの機能面からだけでなく、空間ストックとして捉えることの重要性を示し、魅力ある都市空間と豊かなイメージを形成するための考え方と手法を提示した。これにより、現在豊かな空間づくりとして個別に進みがちな場所の修景やデザインを、マクロな都市空間構造との関連で位置づけ、空間の基本的な質を担保するインフラ整備のあり方が示されたと考える。今後はより具体的で実用的な手法として提示するために、事業化の手法との関連を検討したい。

表1 広幅員街路の演出手法

| | 効果 | 手法 |
|----|------------|--|
| 方向 | 都市軸の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 起点、終点に象徴的な要素を配する ・ 街路のデザインを統一する ・ 一般道と幅員、デザインにコントラストをつける ・ ヴィスタ景をつくる ・ 顔面部のデザインを工夫する ・ 名前をつける |
| | 都市軸のネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・ ヴィスタ景のネットワークを形成する ・ 南北軸、東西軸を形成する |
| 対比 | 境界をつなぐ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 新旧など性格の異なる地区の境界に配慮する ・ 街路をはさんで左右の街並にコントラストをつける ・ 街路自体に広場的機能を持たせる ・ 街路の両側を見通せる場所をつくる |
| | 内外をつなぐ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 領域の内と外をつなぐように配慮する ・ 両側にコントラストのある要素を配置する ・ 境界をこえる部分に特徴を与える |

表2 環状道路の演出手法

| | 効果 | 手法 |
|----|-----------|---|
| 方向 | 領域の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の都市の領域に沿って配置する ・ 環状道路をまたぐ道路との交点を門として演出する。 ・ 領域の内と外が視覚的に連続するような構造（地下化等）とする |
| | 線の明確化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地形の縁に沿って配置する ・ 内から外への視線を開放するような構造（地下化等）とする |
| 対比 | 要所とネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・ 都市の要所を連絡するよう環状道路を配置する。 ・ 連結する道路としての一体感をつくる ・ それぞれの要所にコントラストをつける。 |